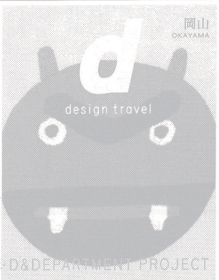


(東京都新宿区)は、建築資材事業などをメインとし、2017年に東京丸の内・キッテ3階に1000点以上の品をそろえる初のG.D.S.Tを構えた。

岡山の観光ガイド 発行とデザイン展

D&D DEPARTMENT
デザインが視点の観光ガイドブック「design travel」岡山(B5判変形、日本語)英語表記、102頁税抜1900円)が、D&D DEPARTMENTから発行、10月16日から全国書店で発売となった。
同誌の「その土地を知

岡山号の表紙



る」では備前焼の瓦で書かれた特別史跡「旧閑谷学校」。「その土地らしい買物」として民芸系の食器類を数多く扱う「V&V」キャリナー本店、「岡山のもぎ」を楽しむ「では編集部が出会った備前焼作家、寺園証太(GUMBO CERAMICS)、木村肇(陽窓)、森本仁、安藤騎虎(鳴瀧窓)の4氏などを

紹介する。同誌発行に伴う関連イベントとして、岡山では「d編集部」の岡山へ行く(県内各所、11月30日まで)、落語会11月12日、出版を記念するイベントが11月13日開催。東京・渋谷ヒカリエでは、「d design travel OKAYAMA EXHIBITION」を11月30日まで開催、d 47 食堂では岡山定食を提供している。詳細はウェブサイト(https://www.d-department.com)の特集をみるから。

土岐製食器も展開

「KIKIMEE」

プロダクトブランド「KIKIMEE」(https://www.kikimee.tokyo)は、10月と相次ぎ、第2弾となる3シリーズの食器などを発表し、ネット販売を開始した。「キキメ」は生活雑貨の企画開発、製造・販売などを手掛ける(株)アロトオブ(東京都立山善規社長)が自社ブランドとして立ち上げた。「等身大の暮らしの中に、心地の良い」効果を目の指し、異なる素材の組み合わせ、産地の技をつなぐモノづくりを行う。新シリーズの一つ目は、スタッキング機能と独特の表情がある梅花皮の陶食器「kasane」(単品税抜2200~3800円)。3サイズのボウル、2サイズのプレート、またこれらを2段、3段と重ねるこ

とでセットとしても使用できる。色はブラックとブルー。もぎ(en)(小田原×北海道)は、寿司下駄から着想した天然無垢のアラカルトボードで2サイズ、2色。10月発売の陶製花器「hanauke」(税抜5500円)は、岐阜県土岐市のがば焼込み成型、

胸肩部分に木を組み合わせた独自フォルムで、4色を展開する。同社はネットショップを6月に開設、燕製の網が乗ったプレート「amine」(ケーキスタンドを思わせる職人の細やかな技法が光る「koudai」の2シリーズを発表。今新シリーズを含め陶製品はすべて土岐の4窯元が担う。ブランドスタート時には、海外クライアントをもち陶磁器デ

ザイン経験もあるデザイナー・福定良佑氏(京都と協業した。デザイナー兼プロデューサーの立山社長は「家で人が集うのはリビングで、ダイニングなので、テーブルウェア商品の開発・販売から始めた。第3弾はマグカップのほか、これまでの

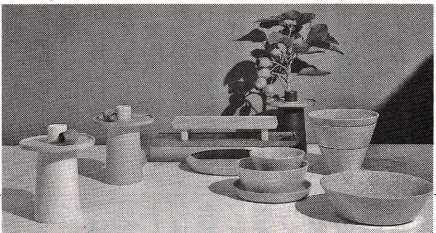
商品にサイズ、色を追加する」と話す。また実物を手にしたいとの顧客の多くの声を受けて、来年1月都内ショッピングモールで催事販売も予定する。

京都発クラフトイベント、来年3月開催
みやこめっせ他で

工芸・手仕事の作り手を紹介する展示販売会「Kyoto Crafts Exhibition DIALOGUE」の来年3月の開催(3月10~14日)が決定し、出展者41組も11月20日まで募集している。

2018年からスタートした「DIALOGUE」は、ホテルカンラ京都の客室やエントランスを会場とし、工芸・手仕事の作り手を紹介してきた。密を回避しなければならぬ新しいスタイルの中、リアルとオンラインを併用した「DIALOGUE」(「みやこめっせ」)の京都伝統産業ミュージアム「BEAMS JAPAN Kyoto」(DEPARTMENT KYOTO)など京都市内10カ所を会場とする。期間中には、第2回京都ヤフトショーや京都府が定めた「伝統産業の日」のイベントも開催、シャトルバスの運行も計画している。

同展示会は京都府、京都市、京都商工会議所などで構成する「KYOTO KOGEI WE EK」の公式プログラムとして発足。今年2月の開催時には、京都や瀬戸の窯元、陶芸家を含む60組



「hanauke」(左)と「kasane」(右)

るデザイナー・福定良佑氏(京都と協業した。デザイナー兼プロデューサーの立山社長は「家で人が集うのはリビングで、ダイニングなので、テーブルウェア商品の開発・販売から始めた。第3弾はマグカップのほか、これまでの